

6 地形及び地質

【予測に対する基本的な考え方】

地形及び地質については、事業により表-6.1 に示すような項目において周辺環境に影響を及ぼす可能性が想定されました。したがって、文献調査等を行い、事業実施区域及びその周辺において、事業による影響を検討すべき重要な地形・地質が存在するかどうかについて調べました。

表-6.1 重要な地形地質に及ぼす環境影響の要因

	工事中的の影響 (工事の実施)	建設後の影響 (設備の存在)
重要な地形及び地質	—	<ul style="list-style-type: none">・ ダム堤体の存在・ 原石山の跡地の存在・ 残土処理場の跡地の存在・ 道路の存在・ ダムの供用・ 貯水池の存在

【予測に必要な調査結果の概要】

調査の結果、事業実施区域及びその周辺では、「重要な地形及び地質」は確認されなかったことから、影響予測は実施しませんでした。

6.1 調査結果

文献調査等を行った結果、事業実施区域及びその周辺において、文化財保護法（文化庁公示第2号）（昭和25年5月30日法律第214号）及び地方公共団体における条例に基づく天然記念物、世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成4年9月30日公布）において指定された地域、自然環境保護法（昭和47年6月22日法律第85号）に基づいて指定された自然環境保護地域などの重要な地形及び地質は確認されませんでした。

地形及び地質の状況の調査結果を表-6.2に、地形分類を図-6.1、表層地質を図-6.2に示します。

表-6.2 地形及び地質の状況の調査結果

調査項目	調査結果
地形の状況	<p>標高1,000m以上の渡神岳、釈迦岳が流域界にそびえ、上流域は標高600～900mの急峻な火山山地、中～下流域は標高400～600mの火砕流台地をなしている。山腹を刻む河川は溪谷を呈しており、沿川には小規模な河岸段丘が分布している。</p> <p>大山ダム建設予定地点は、大山川と赤石川の合流点から約2km上流の赤石川下流域に位置し、ダムサイト直上流で右側から竹の迫川が合流する。貯水池周辺は、耶馬溪火砕流堆積物によって構成された標高400～600mの火砕流台地であり、それより下の川沿いの谷斜面は全体的に急峻で30°～40°の傾斜を示している。赤石川沿いの平坦面は、河川沿いに断続的に分布する狭長な河岸段丘面のみである。赤石川の河床勾配は、ダムサイト付近で約1/30～1/33である。</p>
地質の状況	<p>赤石川沿いの地質状況は、赤石川に沿った谷部に新第三紀鮮新世の下釣火山岩類、釈迦岳火山岩類といった安山岩質溶岩及び火砕岩を主体とした地層が厚く分布している。下釣火山岩類は上流側に、釈迦岳火山岩類は下流側に分布しており、下釣火山岩類は釈迦岳火山岩類に不整合に覆われていると推定される。また、釈迦岳火山岩類は、ダムサイトにおける詳細な地質調査から、溶岩の流下方向はおおむね東西方向、約15°東傾斜であることが確認されている。</p> <p>その上位には、泥岩、砂礫層、火砕流堆積物等からなる日田層が分布する。日田層は、貯水池周辺域では赤石川沿い、竹の迫川沿い及び大山川沿いの河床部～山腹斜面に局所的に分布する。</p> <p>これらを覆って第四紀更新世の耶馬溪火砕流堆積物が広く分布しており、火砕流台地を形成している。この地層の基底の高度はダムサイト付近では標高400m程度であり、大山側に向けて基底の高度が低くなる傾向にある。赤石川の下流には耶馬溪火砕流堆積物よりも新しい小規模火砕流堆積物からなる大山層が局所的に分布する。また、赤石川沿いには、阿蘇火砕流堆積物が釈迦岳火山岩類を直接被覆する形で点在している。赤石川、大山川山腹斜面には全般的に巨石混じりの崖錐堆積物が分布しており、現河床両岸には円礫を多く含む段丘堆積物が点在する。また、現河床には巨石を多く含む土砂が堆積している。</p>

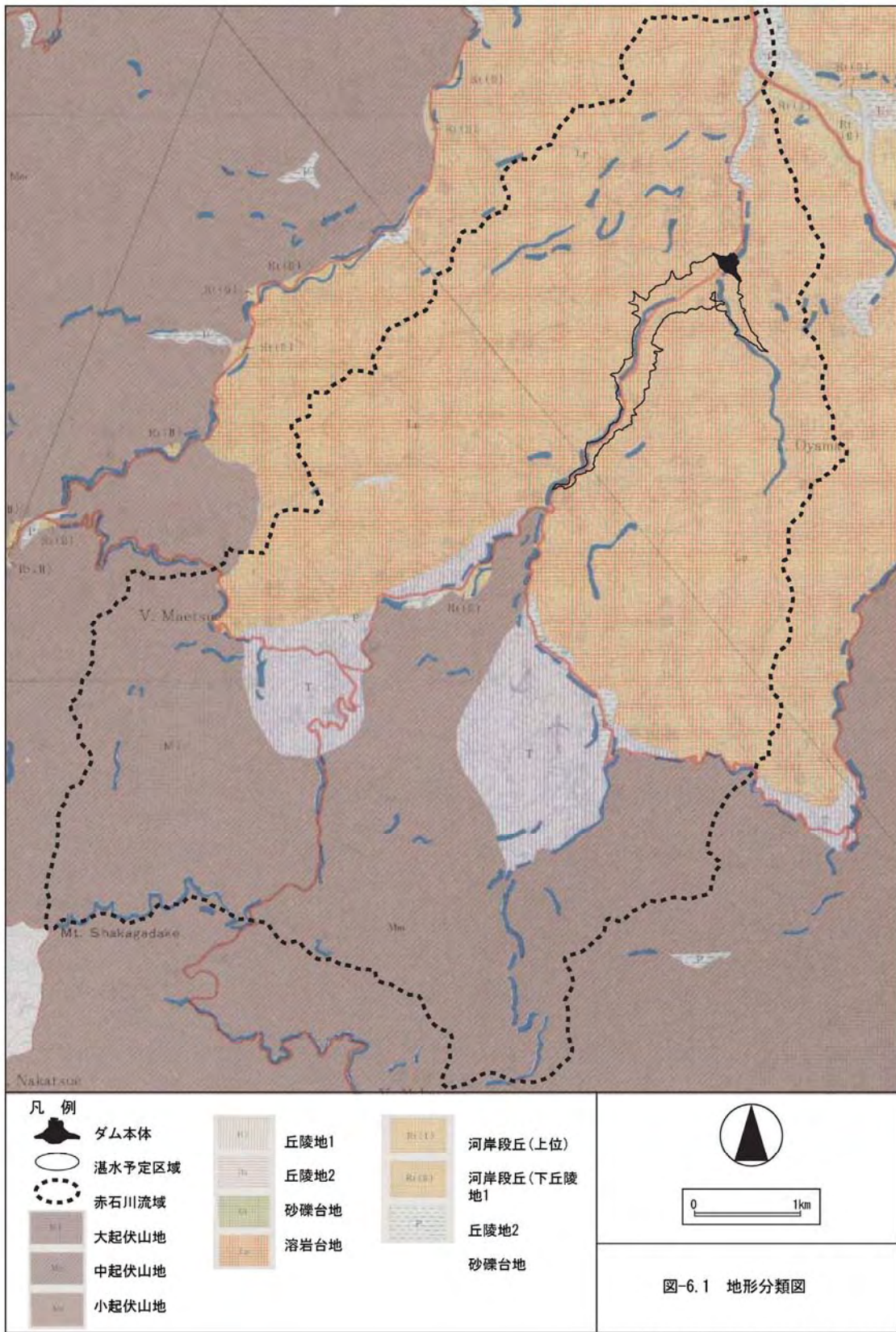
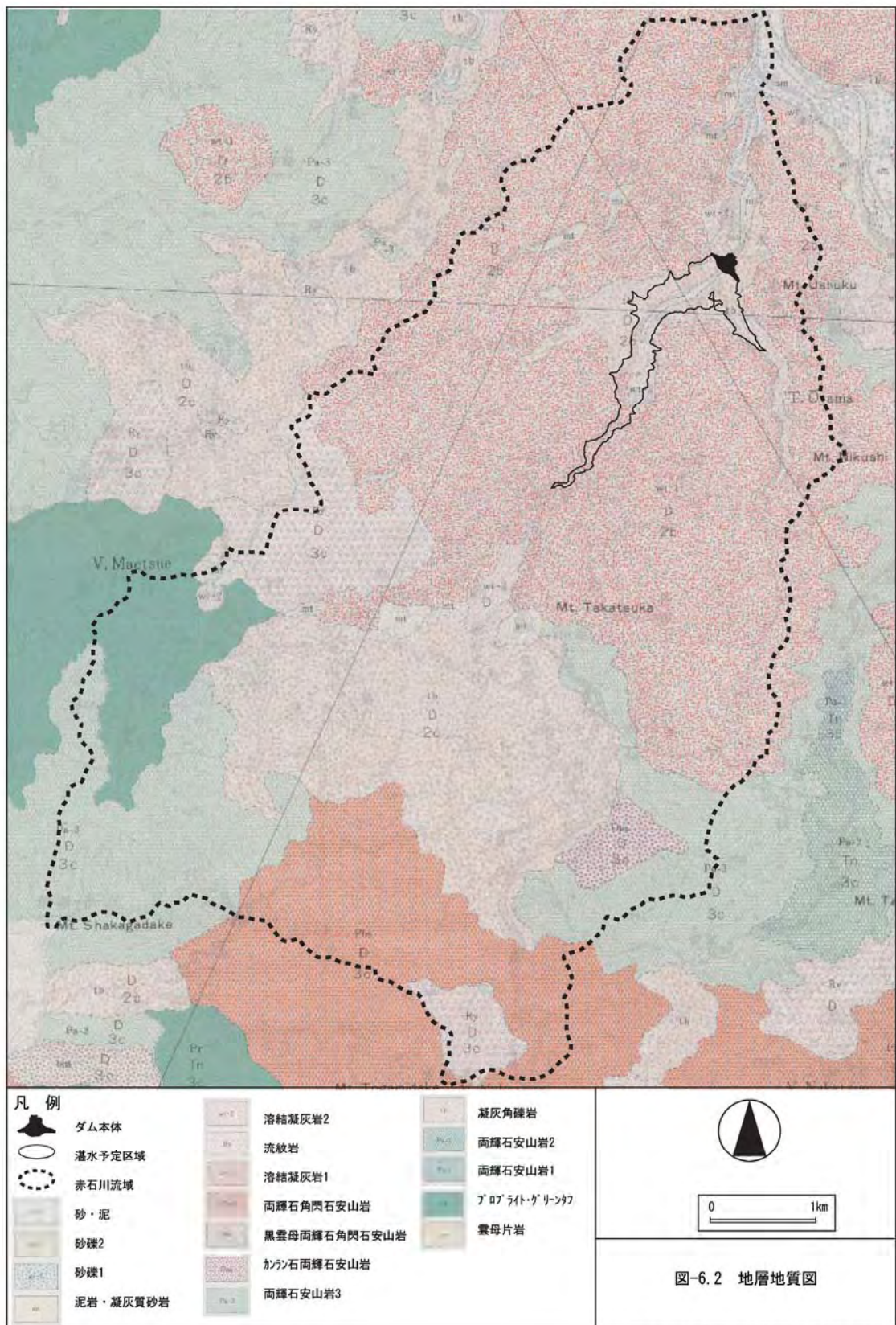


図-6.1 地形分類図

出典：地形分類図（日田）昭和55年大分県



出典：表層地質図（日田）昭和55年大分県